

## 安心施策に係る具体的な方策(案)について 1

施策の方向性	
1 在宅の障害者が、日常介護を行う者の疾病その他の理由で介護を受けることができなくなるなど緊急に支援が必要となった場合において、在宅生活における不安解消と安全確保を図る。	
具体的な方策	説明
<b>&lt;特定非営利活動法人むつみ会&gt;</b> ①ショートステイの整備・拡充 ②日中一時支援施設での特別受け入れ ③グループホームでの特別受け入れ	①緊急な場合だけでなく、日常介護する方の休息のためにも必要と思われるので ②③緊急な場合に空きがないときに受け入れができるように法的整備をして受け入れができるようにする
<b>&lt;特定非営利活動法人おひさま生活塾&gt;</b> ・ショートステイのベッド数を増やす。 ・緊急時でもヘルパー派遣ができるようにする	・ショートステイの数が少なく希望するところへのショートステイが困難 ・医療行為がある人のために看護師の派遣が即できるような体制をとって欲しい
<b>&lt;宇部市聴覚障害者福祉協会&gt;</b> ・種別は問わず、市内の施設に緊急時にショートステイができるよう、居室やベッドを確保しておく。 ・ショートステイのできる施設は、月ごとの持ち回りでもよい	・聴覚障害者も高齢化が進み、夫婦間で介助をし合う姿も見受けられることから、上記「施策の方向性」に沿った、緊急時に安心してショートステイさせられる施設の確保を望みたい
<b>&lt;在宅障害児者と家族を支援する会&gt;</b> ・特殊な状況でのサポートに特化されているようだが、日常生活24時間という視点でのサポートについてはいかがか？施設の終了3時ころから自宅に帰って、働く家人が戻るまでの約2時間は一人で留守番というものも多いと思う。親は、この2時間がとても不安である。他の施設の日中一時を利用するというのも考えられるが、こうしたつぎはぎの対処ではなく、小学校の学童保育のような感じで、各事業所を終えて、希望する者がそれぞれ好きな時間を過ごしなが、迎えを待てるような場所が作れないだろうか？さらに、希望を言えば、施設から送迎バスでその場所まで送っていただきたい。日頃、運動する機会が少ないので、こうした場所で、運動できるプログラムを準備してもらえともっとうれしい。 ・重度の障害児も利用できるよう、施設に「重度加算」をしてはどうだろうか。予算が拡大することは心配だが・・・ ・親が病気や老いたりしてサービスを利用して生活しなければならなくなった時一緒に住める施設が欲しい。	

施策の方向性

1 在宅の障害者が、日常介護を行う者の疾病その他の理由で介護を受けることができなくなるなど緊急に支援が必要となった場合において、在宅生活における不安解消と安全確保を図る。

具体的な方策

説明

<宇部すみれ会>

- ・在宅の障害者がいる場合、ケアマネージャーさんなどとの日頃からのコミュニケーションと、将来についての個に応じた話し合いを行っておくこと(ケアマネージャーさんの人数の確保)
- ・SOSを受けられる、TELの確保

- ・不安解消と安全確保は家族のみではできないことを前提として、動くことの必要性を常に感じている。担当する人数が多すぎれば、やはり難しい。  
また、何かの時に、すぐ対応ができる連絡先の確保は、親子で安心、安全は少しずつでもつながると思う。明日は、被害者、加害者になるかもしれない。不安は大きい。